

キャラクター名	プレイヤー名
ルクシア・ローレンツ・シュバリーテ	

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	サムライ	Lv.1:	サムライ	性別	女
称号クラス				年齢	27
種族	ヒューリン			境遇	出世
出自 (効果)	闇の一族			目標	強制

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	13	12	8	8	8	9
ボーナス	5	4	4	2	2	2	3
クラス修正	2	2	1	0	0	1	0
他修正							
能力値	7	6	5	2	2	3	3

HP	54
MP	37
フェイト	4

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	菊一文字	至近	-1	9	0	0	0	0	0
左手	トゥーハンドアタック								
頭部	サークレット					2			
胸部	スタデッドメイル					6			-1
補助	マント					1			
装身具									
能力値			6	0	5	0	3	7	12
スキル		2	4			4	2		
その他									
総計(右)			7	13					
総計(左)					5	13	5	7	11
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	2			2	+ 2 d
トラップ解除	6			6	+ 2 d
危険感知	2			2	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定	2			2	+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
幸福のペンダント	
冒険者セット	
MPポーション	
HPポーション	

現在重量:	11		
最大重量:	15	所持金:	190
		預金・借金:	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1							
バッシュ	2	4	メジャー	武器	単体	命中		
効果:	武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]							
アイアンクラッド	2	3	DR直前	-	自身	自動成功		
効果:	DR直後に物理ダメージ (SL×3)							
カバーリング	1	2	DR直前	至近	単体	自動成功		
効果:	対象にカバー、メインプロセスに1回							
ウェポンルーラー	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	命中判定の達成値に+ (SL+1)							
アームズマスタリー: 刀	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	命中判定+1D							
スピリットオブサムライ	1	-	アイテム	-	自身	-		
効果:	刀をSL個所持							
トゥーハンドアタック	2	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	装備片手→両手に変え、攻撃力に+ (SL×2)							
カバームーブ	1	4	カバーリング	-	自身	自動成功		
効果:	カバーリングを射程20mに変更							
オートガード	2	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	物防: +SL×2、魔防: +SL							
シックスセンス	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	奇襲攻撃を受けた時判定に-1Dされることなくリアクションできる							
アスレチック	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	登攀や跳躍を行なう筋力判定に+1D							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

シュヴァリーテ家の初代はローデシア王国の国王と愛人の間に生まれた子であり穢れた血であると王の眷族の中でも嫌悪され、貴族としての立場はあったものの王からは反逆者の抹殺や、諜報活動などを任されていた。そのシュヴァリーテ家29代ローレンツは、よく似た双子の子どもを得る。好奇心旺盛で優しい兄はクラウス、冷静沈着で真面目な妹はルクシアと名付けられた。二人は幼い頃、とても仲が良かったが10代になってから兄クラウスは家を継ぐため父であるローレンツとともに家を空けるようになり以降、滅多に会うことはなかった。

それから5年経ったある日シュヴァリーテは王宮で開かれる社交界に初めて招かれた。そこでルクシアは長年会っていなかったクラウスとの再開をはずす。社交界が終わっても二人は同じ馬車に乗って話していた。しかし、突然馬車が転倒し崖から落ちてしまう。体が宙に浮き一体何が起こったのかわからなかった。ただ握っていたクラウスの手だけが見えた。その後、クラウスは微笑みかけ、光るなにかを手に握らせてルクシアを抱きこんだ。突如物凄い衝撃を受け気を失う。目を覚ましなるとか辺りを見とすぐそばには兄の無残な姿、自分たちの前を走っていたはずの両親を乗せた馬車は血まみれになって転がっている。視界の外側に笑みを浮かべた人影が去っていくのが見えた。その瞬間、あいつに家族を殺されたのだと確信し、憎しみと悲しみがルクシアを襲う。ふと、なぜ自分だけが生き残ってしまったのか疑問に思い、手の中に青いペンダントが握られていることに気づく、青白く光るそれを見て、気を失う前にクラウスがこれを握らせてなにか言っていたことを思い出す。ルクシアはこのときこのペンダント(幸福のペンダント)が何かはわからなかったが、命をかけて自分を守ろうとしてくれたのだと思い、兄の代わりに自分が「クラウス」として生きていけ必ず敵を討つのだと胸に誓った。

暫くして帰りが遅いと探しに来た使用人に保護され、自分はクラウスであると言いきらウス・ローレンツ・シュヴァリーテとしてそのまま家を継いだ。その後ルクシアは持ち前のセンスと器用さで着々と優れた当主となった。それと同時に家族がなぜ死んだのかも調べ上げ情報をつかんでいった。当主となって10年経ち、ようやく事件の真相がわかり、ルクシアは事件の首謀者を捕まえ、またその者が今まで行っていた悪事を明らかにした。